

プレゼンテーションの指導

「何をテーマにしたらよいのかわからない」「ICTをどう活用したらよいのか」など、現場の先生方から寄せられた悩みに、宗我部義則先生がお答えします。



Q 生徒たちが、プレゼン資料をつくることばかりに夢中になってしまいます。

A 「何を伝えたいのか」をはっきりさせ、資料づくりにルールを設けるようにしよう。

資料は立派だけれど、心に残らないプレゼン、というのは大人の世界でもよくあることです。資料をつくるときは、見栄えにこだわって、内容がおろそかにならないよう注意しなければなりません。

まず、資料づくりに入る前に、「何を伝えたいのか」ということを、はっきりさせておくことが大事です。そこから「必要な資料は何だろう」と考えさせていくとよいでしょう。事前に「何を伝えたいか」を考えさせることで、生徒たちは「これで伝わるだろうか」と、吟味しながら資料をつ

くるようになります。

また、私は資料づくりにルールを設けるようにしています。「使用する写真は三枚まで」「二枚の資料の文字数は三十字以内」「使う色は三色まで」などの制限をすることで、資料づくりにかける時間を短縮することができます。また、生徒たちは「どこに色を使って強調して説明したらよいのか」「どこに写真を使ったら効果的なのか」など、資料を使うことの意味や、資料の示し方を考えるようになります。

Q プレゼンの指導で、宗我部先生がいちばん大事にしていることは何ですか。

A 「聞き手のニーズ」を、しっかり分析させることです。

これまでのプレゼン指導は、「自分が伝えたいことをしっかり伝えること」「どうやって自分が伝えたいことを伝えるか」にばかり指導の力点があったように思われます。もちろんこれが大切なのですが、自分本位になりすぎるのが問題です。もっと「聞き手のニーズを分析すること」に力点をおいた指導を加えていくべきです。

プレゼンには、「言いたいことを理解してもらおうこと」だけでなく、「理解してもらった上で自分の考えを選んでもらうこと」などさまざまな目的や達成目標があり

ます。前者（説明型プレゼン）の場合、「相手が本当に知りたいことは何か」をきちんとつかまないと、聞き手が満足する説明ができたことになりません。また後者（説得型プレゼン）の場合、「相手が本当に必要としている提案」になっていなければ、理解はされても選んでもらえないということが起こります。つまり、プレゼンでは、「聞き手のニーズ」を分析することが成否を分けるのです。

ここが指導のポイントになります。相手は何を求めているのか、相手が知らないこととは何か、この事柄について相手はどう受け止めるだろうか……など、聞き手のことを徹底的に予想・分析させ、何をこそ伝えたり、提案したりすべきか、自分が言いたいことと聞き手が聞きたいことの関係をしっかりと考えさせる。そうやって、聞き手と対話的なコミュニケーションができるようになることが大事だと思います。



Q 時間がなかなか取れません。あまり時間をかけずに

プレゼンの授業をすることはできますか。

A 普段の国語の授業に、プレゼンを気軽に取り入れてみましょう。総合的な学習の時間とリンクさせてもよいと思います。

プレゼンの授業というと、パソコンやプロジェクターを使ったり、発表の練習を一念に行ったり……と、大がかりなものをイメージしがちです。でも、もっと楽に考えてみてはいかがでしょう。

私は「メモカード・プレゼンテーション」と名付けたプレゼンを、授業のさまざまな場面に取り入れています。A5判の小さなカードにスピーチメモを簡条書きし、それを見せながらプレゼンをするというものです。

例えば、「走れメロス」の授業で、「メロスは、なぜこういう行動をとったと思うか」について考えさせるとき、私は生徒たちに自分の考えをカードに簡条書きで書かせ、グループの中で順に発表させます。

この活動は、プレゼンの練習になること



はもちろん、①簡条書きにすることで、考えを具体化することができる。②カードを見せながら話すほうが何も持たずに話すより、人前で話すことの抵抗感がぐっと少なくなる。③短時間で生徒全員が発表することができ。……などの利点があります。小さなカードに、自分の言いたいことを短文でまとめることは、プレゼン資料をつくるよい練習になります。ぜひ授業のいろいろな場面に取り入れてみてください。

それから、プレゼンの授業を総合的な学習の時間などとリンクさせてもよいでしょう。例えば、提案するテーマ探しは総合的な学習の時間に行い、資料づくりや発表は国語の時間に行う、などと柔軟に考えていけばよいのではないのでしょうか。



? 何についてプレゼンをさせるか、
テーマ選びに苦労しています。

A 身近な話題を取り上げましょう。
そして、おもしろい切り口で
提示してあげるとよいと思います。

教科書（二年P51）では、テーマ例として、「クラスの『お薦め本』大賞を推薦する」「新入生に学校生活の場面を取り上げて説明する」などが挙げられています。このように生徒にとって身近なテーマを取り上げるようにしましょう。さらに、そういうテーマを、「〇年〇組文学賞」をつくってみようとか、「新入生のために学校紹介ポスターをつくってみよう」などと、生徒たちがおもしろがるような切り口で示してあげることも大事だと思います。

また、私は以前、総合的な学習の時間に地域をフィールドワークさせ、そこからバリアフリーの問題や放置自転車の問題など、気づいたことを挙げさせ、それに対しての改善策を提案しようという授業をしたことがあります。そのように、総合的な学習の時間を使って、身近なところからテーマを探してもよいかもしれません。

? ICTをもっと活用したいのですが、
どのように使ったらよいのでしょうか。

A デジタルカメラやタブレット端末を
テレビにつないで映像を見せるなど、
大げさに考えずに、気軽に活用すればよいと思います。

プレゼンというと、パワーポイントでスライドを作成しないといけない……などと考えがちですが、ICTはもっと気軽に活用すればよいと思います。

例えば、プレゼン資料は画用紙などに書きでつくらせ、デジカメで写真を撮ってそのままテレビにつないで映すとか、タブレット端末で撮った映像をプロジェクターで映すだけでも、大いに役立ちます。

学校にはICT担当の先生がいらっしゃると思いますが、すべて自分一人で行おうとせずに、そういう先生に相談してみてもいいかがでしょうか。きっと、丁寧に機器の使い方などを教えてくださるはずです。



? 発表がうまくできない生徒に、
どのような指導をしたら
よいでしょうか。

A 絵コンテをつくらせるとよいと
思います。
また、話し方については、
普段の授業の中でこまめに指導
していくことが大切です。

発表原稿をきっちりとかけるのではなく、教科書（二年P52）のような絵コンテをつくらせると、イメージが湧きやすく、発表がスムーズに行えます。

また、話し方についていえば、プレゼンでは、流暢に話すことを要求しなくてよいと思います。それよりも、聞き手を意識し、伝えたい内容をしっかり話しているかというところに重きを置くべきです。

話し方や声の出し方については、普段の授業でこまめに指導していくことが大事です。「国語教育相談室No71」に、「声を届ける」という私の実践を少し紹介していますので、そちらも参考にいただけたらと思います。



AQ 宗我部先生は、どのようなプレゼンの授業をされているのですか。
学校紹介のポスターをつくるという実践をしています。

「広告会社をつくって、学校PRポスターのプレゼンをする」という実践をしています。学習グループを広告会社に見立て、クライアント（学校）の依頼を受けて、学校PRポスターをつくり、プレゼンで自作作品をアピールするというものです。授業の大まかな流れは、

①実際の広告ポスターを読み解き、その表現の工夫を考える。
②クライアント（学校）の依頼内容をもとに、ポスターのコンセプトを考える。

③ポスターを制作する。
④ポスター作品のプレゼンをする。
……というものです。

この授業で、生徒たちは「自分たちのポスターを選んでほしい」と、熱のこもったプレゼンをしていました。このように、相手を説得しなければならないプレゼンのほうが、生徒たちは意欲的になりますし、発表自体も力の入ったものになります。詳しくは、「国語教育相談室No60」で紹介しています。ぜひ、参考にしてください。



そがべ・よし のり
埼玉県生まれ。お茶の水女子大学附属中学校教諭。お茶の水女子大学非常勤講師。国立教育政策研究所「教育課程実施状況調査問題（中学校国語）」作成および分析委員。平成二十年告示中学校学習指導要領解説国語編作成協力者。光村図書中学校「国語」教科書編集委員を務める。